

人物評価書

曾 芳代は1996年4月より私のゼミに入り、私の指導の下で2001年3月に課程博士学位を取得した。

彼女の学業能力について、日本人にさえ劣りを取らない流暢な日本語能力があげられる。彼女の課程博士論文は優れた日本語で書かれている。また、課程博士学位を3年間で取得したことからも彼女の優秀さが伺える。日本人学生にとっても、外国人留学生にとっても、3年は学位取得の最短年数である。他に、彼女の課程博士論文「日・台企業における労働時間短縮施策の研究」は台湾企業にとって、非常に実務的な示唆を富んでいることも記述に値すると思われる。

もちろん、彼女にも多くの欠点がある。1つの事柄に集中できず、彼女の思考様式は常に突飛的である。また、一度物事を決めたら、彼女の思い込みは強く、なかなか改めようとしない。これらの欠点を自覚させるために、私は色々な課題を彼女に与えた。そして、彼女は一時的に挫折しても最終的に周りの人の助言を聞き入れ、結果として課程博士論文という課題をやり遂げることができた。初心を貫けるようになった彼女の人間的な成長を、私は指導教官として非常に喜んでいる。

さらに、曾 芳代は研究の分野以外にも大いに活躍している。台湾大震災の際、彼女は自発的に支援団体を組織し、被災者に対して経済的援助を行うという人道的な活動に尽力した。また、台湾人を含む外国人留学生が神戸での生活に馴染めるように、積極的に助けの手を差し伸べていた。彼女は、外国人留学生と現地の日本人が相互理解を深めていく過程の中に、重要な役割を担ってくれた。

私は彼女が今後、さらなる重要な学術研究を行い、また、周りの人間と友好的な人間関係を築いていけることを大いに期待している。

奥村康司

01.03.24受